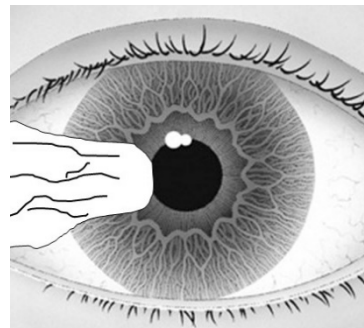


翼状片切除術

1. 翼状片とは

翼状片は結膜(白目の部分)の下に生じた異常細胞が増殖し、角膜へ入り込んでしまう良性腫瘍の一種です。結膜は血管が豊富な組織であり、そのため本来血管のない組織である角膜に、その結膜が入り込んでしまうため黒目の部分が充血したように赤く見えます。翼状片は通常は鼻側から角膜中央部に向かって侵入します。翼状片が角膜の中央へ侵入するにつれ、その侵入した方向へ角膜が引っ張られ乱視が生じ、視力が低下します。さらに翼状片は放置すると角膜中央に向かって大きくなり、角膜中央まで進行すれば、目に光が正常に入らなくなり、著しく視力は低下します。翼状片の治療には手術が必要です。



2. 翼状片切除術

手術は角膜に侵入した翼状片の組織を取る手術で、局所麻酔でおこないます。まず角膜や結膜の下にある翼状片の組織を切除します。続いて翼状片は再発しやすい病気のため、再発を予防する方法を併用します。

a) 自己結膜移植術

切り取った結膜部分に自分の正常な部分の結膜を縫い付けます。

b) マイトマイシンCの併用

マイトマイシンCという抗がん剤を薄めて、翼状片を切除した後の結膜にかけてから、洗い流します。(状況に応じて使用する薬剤であり必ずしも全例に用いる薬剤ではありません。)

c) 羊膜移植術

難治例の場合は、アイバンクからドナー提供された羊膜を移植することもあります。

3. 手術合併症

a) 麻酔

麻酔薬、及び感染予防に用いる抗生剤は化学物質であるため、ごく稀にショックを起こすことがあります。起きた場合には最善の処置をとります。

b) 翼状片再発

翼状片は良性のものです。再発することがあります。再発した場合は再手術の適応となります。

c) 角膜びらん

角膜の翼状片がくっついていたりした部分をはがし削るため角膜びらんを生じ、異物感を感じ

ます。数日から1週間で徐々に症状は改善します。

d) 角膜混濁

角膜の翼状片があった角膜部位は術後も濁りが残る場合があります。

e) 結膜充血・結膜下出血

手術後は白目（結膜）が赤くなります。1ヶ月から2ヶ月程度で徐々に改善します。。

f) マイトマイシンC

マイトマイシンCの使用では、長い年月の間に強膜（白目の部分）が薄くなることが稀にあります。

f) 感染症

手術後は眼を触らないようにしてください。急な痛み、視力低下の場合は早めに受診してください。